

稀覯書展示会

「ペリーがやって来た！
黒船来航と日本」
を振り返って

奥 正敬

本学図書館は、アメリカのマシュー・カルブレイス・ペリー提督が浦賀へ来航した1853年6月3日（太陰暦。太陽暦では7月8日）に因み、6月3日（火）から同9日（月）にかけて、ペリー提督来航150周年記念稀覯書展示会「ペリーがやって来た！ 黒船来航と日本」を開催しました。

この展示会は、本学図書館の「我が国の対外交渉史料コレクション」と「ニッポナリア（西洋言語による日本研究書）コレクション」から、19世紀中の関係資料（一部、18世紀の関連資料を含む）約30冊を選んで出展したものです。

ペリー提督来航までの資料

この展示会では、プロローグとして寛永年間から一年任期で来日していた歴代のオランダ商館長が、当時の世界情勢や東アジアの動向を徳川幕府（以下、幕府と記述）に知らせていた『オランダ風説書』類（写本）や、オランダ国王の特使が持参して、世界情勢の変化を理由に開国を勧めていた親書の内容と幕府からの回答である『唎蘭告密』（写本・書写年不明）など、幕府が海外の情報を集めて、その動きを知るようになった資料を出展しました。

また、ペリー来航の7年前にアメリカから来日して開国を求め、「異国船打ち払い令」によって退去させられた特使ジェームズ・ビッドル提督に関する資料『弘化三年五月浦賀江渡来亜墨利加軍艦と乗組員之圖』（弘化3 [1846]年）も出展しました。これらの資料で、幕府が海外情勢を積極的に収集し、その動向を把握しながらも、頑強なまでに鎖国政策を守っていた様子をご理解いただけたものと思います。

ペリー提督来航に関するアメリカ側の資料

ペリー来航についてのアメリカ側の資料として、フランシス・ホークスが編纂した議会に対する正式

報告書 *Narrative of the Expedition of an American Squadron to the China Seas and Japan* (Washington [D.C.], 1856 [安政3]年。日本語書名『シナ近海および日本遠征記』) を出展しました。



本書では、1853（嘉永6）年と翌1854（嘉永7）年の2度にわたるペリー来航の記録と「日米和親条約」の締結交渉の経緯が記述され、幕府の反応から当初予定していた「日米通商条約」の締結を断念することも述べています。また、日本文化や産業を記載する中で、ペリーは日本について「一度、文明世界の過去及び現在の技能を所有したならば、強力な競争者として、将来の機械工業の成功を目指す競争に加わるだろう」と予測しています。

また、来航した黒船の艦内で乗組員に日米交渉の推移を知らせるために印刷された *Japan Expedition Press* (Powhattan & Mississippi, 1854 [嘉永7]年。日本語名『ポーハタン号とミシシッピー号で印刷された3枚の新聞』) を出展しました。

これらの資料は、当時のアメリカが1776年の建国以来、77年を経たばかりの歴史の浅い国であったにも拘わらず、議会決議に基づいた大統領令で遠征艦隊を日本へ派遣するなど、シベリアン・コントロールによって軍部が管理されていた点や、海軍の艦船内での乗組員に対する配慮が多様なものであったことを窺える資料として出展いたしました。

ペリー提督来航に関する日本側の資料

一方、このペリー来航についての我が国の資料として、本学図書館が古文書の中から発見した手書き資料で、ペリー来航時に幕府が整えていた江戸湾防御体制の図『嘉永六年六月江戸湾御固圖』（嘉永6 [1853]年）を出展しました。また、この図と共に見つかった手書き図で、ペリーがミラード・フィルム